

国里愛彦 (2015).  
介入効果のメタ分析  
(公募シンポジウム「現場に役立つ心理学 (5) :  
研究・実践の効果を測定するための  
研究デザインとデータ分析」話題提供)  
日本心理学会第79回大会, 名古屋国際会議場.

国里 愛彦

日本心理学会第79回大会の「介入効果のメタ分析」では、コクラン共同計画のガイドラインと Preferred Reporting Items for Systematic Reviews and Meta-Analyses (PRISMA) 声明に基づいて、介入研究のメタ分析について解説を行った。エビデンスに基づいた医療においては、良質な無作為化比較試験のメタ分析が最も介入効果のエビデンスが高いとされる。無作為化比較試験を実施するのは非常にコストが高いが、既存の研究の系統的展望はコストが低いこともあって、これまで多くの系統的展望論文が国内でも発表されてきた。しかし、その一方で、実施方法が不適切な系統的展望も散見されるように思う。

本発表においては、介入効果に関する系統的展望の実施手続きを、(1) 問題の定式化, (2) 文献検索, (3) 研究の選択・データベース化, (4) 個々の研究のバイアス評価, (5) 結果の統合, (6) バイアスの検討, (7) メタ分析の質の評価と解釈の7つに分けた上で解説を行った。メタ分析の統計手法に関心を持たれることが多いが、特に(4) 個々の研究のバイアス評価を中心に、具体例をあげつつ説明を行った。具体的には、①割り付けの順番の作成, ②割り付けの隠蔽, ③参加者・職員・効果評価者の盲検, ④不完全なアウトカムデータの報告, ⑤選択的なアウトカムの報告について、評価ポイントと具体例をもとに解説をした。最後に、系統的展望によって統合された結果の推奨度について、Grading of Recommendations, Assessment, Development and Evaluations (GRADE) の考えを紹介した。GRADEでは、エビデンスの推奨度について、①アウトカムに関するエビデンスの質, ②患者の価値観と好み, ③望ましい効果と望ましくない効果のバランス, ④コストや資源の利用の観点から、実施 or 非実施を、強く or 弱く推奨するかを決める。なお、個々の研究のバイアス評価とGRADEの詳細については、2014年に日本認知・行動療法学会第40回大会にて発表した資料をSlideShareにて公開しているので、詳細はそちら

を参照いただきたい。

**【参考URL】**

<http://www.slideshare.net/YoshihikoKunisato/ss-40896238>

